

### 3. 第二次調査概要報告

小 林 登志生・川 淵 明 美

このTechBC閉鎖に関わる第一次事例調査後のフォローアップ調査として調査チームが関心を持ったのは、BC州内の遠隔高等教育はこの後いったいどのような形態となるであろうか、という点であった。

TechBCは大々的にBC州内は言うに及ばず、カナダの中でも主要なバーチャル大学として立ち上がったけれども閉鎖されてしまった。本研究期間中に同時並行的に起きていたことは、同州内のもう一つの主要遠隔高等教育機関の閉鎖問題である。科研費によるカナダ高等教育実態調査で訪問した機関で、バンクーバーにOpen Learning Agency (OLA) という政府機関があった。大学ではなく、州内の諸大学と連携し、各大学のコースをそこを通して学生たちに配信するというメカニズムを持っていた高等教育機関で、コースの配信以外にも大学では独自に実施できない、海外と連携したりする際にその内容について評価を行う、等の役割・機能を果たしているユニークな機関である。

しかしこのOLAも、BC州政府が交代したときに閉鎖されることになりTechBCとほぼ同じ時期に閉鎖されることが決定された。

#### 1. BCキャンパス

BCにはこれと同じような「BC Open University」という遠隔教育機関もあるが、それでは、そこはどうか、同様に閉鎖されるのかという疑念があった。しかしSFUやビクトリア大学など、BC州内の諸大学が連携して運営しているBC Open Universityは残そう、ということになった。どういう形で残すかについては、TechBCができたときと同じように、BC州はまだまだ学生数に対して大学数、教室が少ないのだから、もっとコースを増やし充実させ、学生たちに対しての高等教育へのアクセスを増やしていかなければならないということである。この問題に関連し、ちょうど2月に第一次訪問調査をした時に州内の遠隔高等教育を推進する新たな企画があるということを知った。

当初2月に聞いたのは、TechBC閉鎖決定後「BCキャンパス」というアイデアが浮上していて、新しいタイプのBC州内のコンソーシアムを構築しようという動きであるとのことであった。この企画はビクトリア州政庁内の「C2T2」という機関が中心になって推進しているということを知り、第二次フォローアップ調査を実施した際にビクトリアを再度訪問し主要な担当者にインタビューを行い「BCキャンパス」概念について情報を得た。

C2T2 (Center for curriculum, Transfer and Technology) は、BC州教育庁の下部機関である。BCキャンパスに関するアイデアは、まだ青写真のみでどのような展開をするかはインタビューでも定かではなかったが、計画(案) (Appendix 4: BC Campus Update参照) については同機関を訪問した際にブリーフィングを受けた。これが1年後2年後にどうなっているかについて再度ビクトリアに行きこの問題に焦点を当てた調査を実施すれば、BC州における高等教育の遠隔教育事情に関する更なるフォローアップとして興味深いのではないかと思います。

れる。

全体的にBC州内の主要な高等教育機関の間では、さらに学生数を増やすために新しいコンソーシアムをつくることについては歓迎している、とインタビューした多くの関係者は言っていた。ただし、地元の一部大学関係者にはあんなものは一夜にして適当にでっちあげたものであり、OLEがつぶれたり、TechBCが無くなったからやっているのだ、というネガティブな意見を言う者もいるが、果たしてそれがどうなっていくかは今後の課題で、また何年か後に調べてみる意義はあるであろう。

## 2. TechBCの元受講学生を対象としたWeb上の調査結果 (By John Truman,)

実際にTechBCに通っていた学生たちが閉鎖決定をどう受け止めているかという問題については、調査チームが限られた期間内で直接学生への面接調査を実施することはできないけれども、このフォローアップ調査で何らかの情報収集をすべきだと考えた。しかし外国の研究機関のチームが行ってただやみくもに学生を捕まえて雑談しても意味がない。向こうのコネクションで、現にサイモンフレーザーの学生になった人たちを集めて議論する機会をもとうかなどと考えている時、たまたまTechBCの問題に興味を持っているJohn Trumanというローカルの学生を紹介された。トルーマン氏は、学生の立場からTechBCの受講学生たちがこの閉鎖問題についてどう考えているか、学生たちの反応や認識はどうだったか、という調査をNIME調査チームが2度目に行ったときに実施しようとしていた。

以下に示すのは、本報告書への引用について本人の同意を得たWeb上でJohn TrumanがTechBCの元学生たちに対して意見を求めた調査結果集計の分析の抜粋である。(詳しくは、<http://www.techbcproject.com/papers/TechBCLearnerSurveySummary>参照)

### 1. TechBCについて学生たちはどう思っていたか

学生たちは、TechBCに関しては非常に強い意識 (perception) を持っていた。つまり学生はTechBCが非常にいい大学だったのに、という思いがこのトルーマン氏が実施した調査結果のグラフに表れている。

- TechBCという大学はこれからも成長株だったと思うか？
- TechBCという大学が軌道通り、当初の計画通り進んでいたなら成功したと思うか？
- 学生としてTechBCが、学生とプログラムを閉めて全てをSFUに委譲したことについてどう思うか？

SFUへの委譲には同意する学生は少ない。このことから、TechBC愛好派というものがかなりあることが窺える。しかし、彼等はWeb上で回答を寄せてきた学生であるので、どちらかとTechBCに好意的な人たちが多いのは当然、というバイアスも考慮しないといけない。

## 2. TechBCに在学中に以下の諸々の項目に対してどう思ったか

- 所在地に関してはどうだったか
- 学費、コストはどうだったか
- 設備・施設はどうだったか
- 図書館はどうだったか
- 学生に対するサービスはどうだったか
- 学生の学習支援組織はどうだったか
- 選択できるコースについてはどうであったか
- 自分を取りたいコースが実際に取れたかどうかについてはどうだったか
- コースのフォーマットについてはどうだったか
- 学習のrequirementやフレキシビリティについてはどうであったか
- 先生方の資格についてはどうであったか
- 先生たちの教えるスキルについてはどうであったか
- 全体的な大学としての評判についてはどう思ったか
- 全体的なTechBC在校中の印象はどうであったか

これで見ると回答した学生たちは一般的に高いマークを与えていることから、提供されたプログラム、学習支援等については満足していたことがわかる。

## 3. TechBCがサイモンフレーザーに委譲されるにあたってとられたプロセスについてどう思うか

- BC州政府は学生たちの利益を十分に考えた上で決定をしたと思うか（同意が非常に少ない）
- BC政府はTechBCに関してのdecision makingについて公正だったと思うか、（さらに反対）
- やむなくTechBCが閉鎖されることになったのだが、SFUは考えられる中での最良の選択だったと思うか（これについては比較的同意者が多い。40%）

全体的に言うとSFUという名前に関して、またTechBCの将来にかかわるdecision-makingのプロセスに関しては回答者のほとんどは満足していないというのが結果として明らかであった。

4. SFUサレイキャンパスとなった新たなキャンパスに移行させられたことについてどう思うか。

SFUがTechBCからの移行プロセスを学生たちのことを考えてやってくれたかということに関しては、BC州政府よりは少しはまりました、という結果が出ている。

5. TechBCからSFUへの移行はうまく管理・運営されたと思うか。

- 現在のSFUはかつてのTechBCの学生たちの懸念とか問題というものを十分に考慮してくれていると思うか。
- 学生のSFUに移行してからの内部の諸々のことについて学生たちが満足しているかどうか。

全体的な印象を見ると明らかに在校時代の彼らの満足度に比べると、多くの点でSFUに移行してからかなり悪くなっているというのが学生たちの認識である。

6. SFUに移行したことに対するインパクトについては学生たちがどのように認識しているか。

- この結果として自分の教育の質が上がったという人
- 一般的なキャンパスライフがよくなった、改善された（低い）
- 将来卒業後に、SFUの名前が仕事を探すときに役に立つと思うか（高い）
- 学生たちがTechBCと比べれば名前の上でも規模の上でも圧倒的に大きいSFUという大学の学生になったことについてはよいことだと思うか

全体的に総まとめをすると一般的にはSFUに移ったことは、回答した学生たちはあまり好意的に受け入れてはいなかったと言える。

7. ほかのチョイス、オプションについてはどう思うか

- こういう事態が起きるのだったらTechBCには来なかったであろう
- SFUに移行が決まったときに真剣に他大学に入学しなそうかと考えたか
- 今現在他大学に転向することを考えている
- こういうことが起きたけれどもこのままSFUサレイキャンパスにいて学業を全うするかどうか（圧倒的に多い）

いろんな問題があって、移行について学生たちはあまり満足していない、幸せではない、むしろTechBC時代の方が良かった、という意識が強くある。しかも諸々の問題があって、サイ

モンフレーザーになったからといって決してそれほど良いわけではない。

いろいろ問題はあったけれども、まあいいや、SFUサレイキャンパスで卒業しよう、という学生は多い。それは何故かという、SFUという名前（Well-established Reputation）が大きな要因であろうと考えられる。

このTechBCの閉鎖に対して非常にネガティブな反応をしている学生のまとまった記録として、サレイ市のCity Councilが行ったTechBCの将来に関する公聴会があり、そこで最後の学長が学生たちを引き連れて同公聴会に臨み州政府の決定に対する反論を行った記録がある。その内容は、先に紹介した学生たちの言分と同様だが、全面的に州政府に対して反発をしている。（Appendix 2: Surrey City Council Public Hearing, Nov.,2001参照）